

令和 元 年度 福岡市立 [城南小] 学校 学校評価実施状況(公表用)

| めざす学校像・子ども像・教員像 | | 課題 | 今後の改善方策 |
|---|---|---|--|
| <p>○めざす学校像</p> <ul style="list-style-type: none"> ・明るく活気に満ちた学校 ・地域・保護者に信頼ある学校 <p>○めざす子ども像</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仲良く、助け合う子ども ・よく考え、学び合う子ども ・たくましい心と体をもった子ども <p>○めざす教員像</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間性豊かで、協調性を備え、チーム城南を支える教員 ・教育専門職として指導力を身に付け、教育愛に燃える教員 | | <p>確かな学力の定着と向上</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・問題解決力や表現力等を身に付けさせることにより、主体的・対話的で深い学びを充実させる。 ・学年・学級を分割した少人数指導やTTによるきめ細やかな指導に力を入れ、算数を中心とした学力の二極化を解消する。 ・家庭と連携して家庭学習の充実を図るとともに、進んで自学や読書に取り組む子どもを育てる。 |
| | | <p>豊かな人間性・社会性の涵養</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・進んで挨拶をし、相手の立場を思いやる言葉遣いができ子どもを育てる。 ・Q-Uアンケートやいじめアンケートなどを実施することにより、いじめのない一人ひとりの居場所がある学校集団づくりを行う。 ・不登校傾向児童の解消に向けて、SCやSSW、関係諸機関等と連携した組織的な支援を行う。 |
| | | <p>信頼される学校づくりの推進</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・学校から発行する便りや学校ホームページ、メール配信などを通して、学校からの情報や子どもの活動についての情報を積極的に発信する。 ・学校と地域の行事の融合を図り、共育創造に努める。 ・家庭訪問や面談などを通して、保護者と日常的な連携を図る。 |
| 重点目標 | 指標(取組指標・成果指標) | 達成状況についての説明 | |
| <p>確かな学力の定着と向上を図る。</p> | <p>・「めあて」と「まとめ」を明確に位置付け、一人ひとりの子どもが見通しをもって生き生きと学ぶ授業づくりを行う。</p> | <p>・「めあて」と「まとめ」の位置付けについては、96%の教職員が「できている」と答えており、今後は見方・考え方を働かせるためにまとめの仕方を充実できるようにする。</p> <p>・社会科や生活科を中心として、いろいろな教科等で書く活動や話し合う活動に重点的に取り組んできた。少人数グループでの交流を通して、自分の考えを深めようとする子どもの姿が見られた。さらに、振り返りの工夫にも力を入れていく。</p> <p>・放課後補充学習については、計画的に実施することができた。家庭学習では自学に力を入れていきたい。</p> <p>・福岡市学習定着度調査の3・4年算数では、「福岡市平均と比べて同程度」であったが、その他は「やや上回っている」以上であった。</p> | |
| | <p>・自分の考えをもたせるための書く活動、考えを深めるための話し合う活動を位置付けるとともに、振り返りの工夫を行う。</p> | | |
| | <p>・家庭・地域と連携して家庭学習の充実を図るとともに、放課後補充学習の推進と支援を行う。</p> | | |
| <p>豊かな人間性・社会性を身に付けさせる指導の充実を図る。</p> | <p>・全国や福岡市の学力調査において、昨年度の結果と比較して評価ポイントを維持、向上させる。</p> | <p>・“全全全力 城南小”の児童会スローガンのもと、計画的に「あいさつ運動」に取り組んできた。保護者による学校評価の結果では、昨年度に比べ「進んであいさつ」や「丁寧な言葉遣い」の項目がそれぞれ5ポイント、8ポイント向上していた。</p> <p>・Q-Uアンケートだけでなく、「困っていること」アンケートや「明るい学校をめざして」アンケート(いじめアンケート)を定期的に実施することにより、児童の実態を把握し改善の取組を行ってきた。</p> <p>・担任、養護教諭、管理職が連携しながら、児童の欠席や遅刻の状況を毎日把握し、個に応じた支援を行ってきた。SCやSSWとは日常的に、区子育て支援課やえがお館等とは必要に応じて連携し、組織的な支援を行っている。</p> | |
| | <p>・特別活動部と生徒指導部の連携により、児童会を中心とした「あいさつ運動」などの自主的な取組を計画的に推進する。</p> | | |
| | <p>・定期的な各種アンケートを実施することにより、児童の学校生活の状況を把握し、組織的な改善の取組を行う。</p> | | |
| <p>信頼される学校づくりの推進を図る。</p> | <p>・不登校傾向児童の解消に向けて、SCやSSW、関係諸機関等と連携した組織的な支援を行う。</p> | <p>・学校ホームページを新たに立ち上げ、児童の学校生活の様子を定期的にお知らせしている。また、学校からの情報発信もホームページやメール配信、各種の便りを通して積極的に行っている。</p> <p>・案件や連絡内容に応じて、連絡帳、電話、学校面談、家庭訪問などの手段を選択し、保護者と日常的にコミュニケーションを図ることができるよう努めてきた。</p> <p>・学校の諸行事を通して保護者アンケートを実施することにより、ニーズを把握しながら取組の改善に努めてきた。</p> | |
| | <p>0</p> | | |
| | <p>・「学校だより」や「学年だより」等を毎月発行することにより、学校としての考えや子どもの状況を積極的に発信する。</p> | | |
| <p>0</p> | <p>・定期の家庭訪問をきっかけとして、必要に応じて不定期の家庭訪問や面談を行い、保護者と日常的な連携を行う。</p> | <p>0</p> | |
| | <p>・保護者アンケートを実施することにより、ニーズを把握しながら取組の推進に活かしていく。</p> | | |
| | <p>0</p> | | |
| 学校関係者評価についての説明(評価委員からの意見・要望・改善に向けた提言等) | | | |
| <p>・授業における「めあて」と「まとめ」の位置付けについての達成状況がよく、先生方の頑張りが感じられる。来年度も自信をもって取り組んでほしい。</p> <p>・子ども会育成連合会の活動への参加と塾通いの両立が難しい。5・6年生になると塾通いが増えていき、外国語関係の習い事も多くなっている。だが、塾への依存度は小さいようである。</p> <p>・子ども本人の特性や生活環境の多様化、保護者の関わり方などの要因により、不登校傾向児童が増えてきているように思う。これらについては、社会の問題として捉えることも必要である。</p> <p>・学力などの二極化について、子どもや保護者の実態はどうか。実態に応じた取組をお願いしたい。</p> <p>・地域や公民館行事にも積極的に参加させ、学校と連携して子どもたちを育てていきたい。</p> <p>・午前中5時間授業については、10年以上経過し、子どもたちや保護者にも定着してきている。</p> | | | |